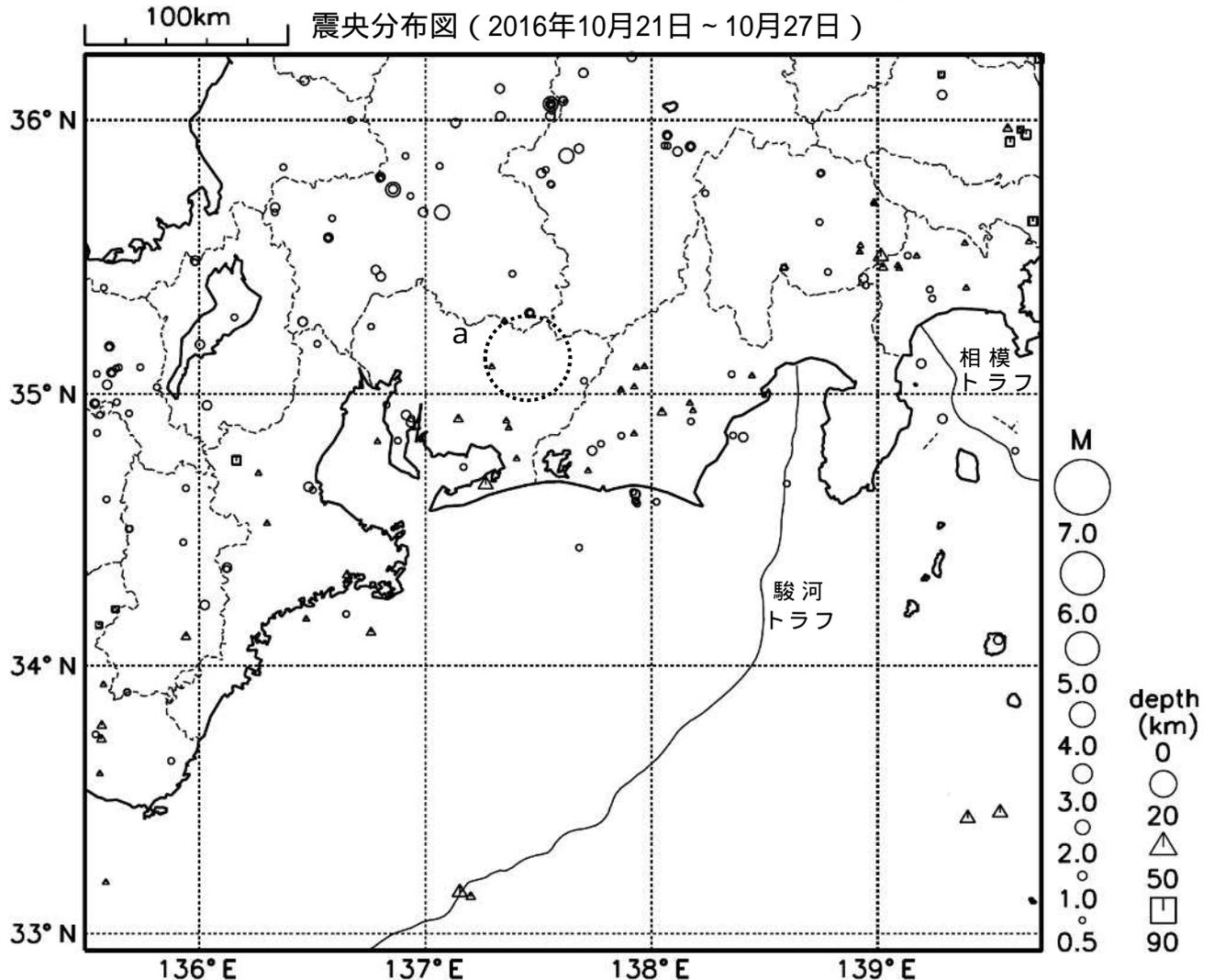


東海地域の週間地震活動概況 No.44

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。



“震度1以上を観測した地震”、“東海地域でM3.0以上、その他の地域でM4.0以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している(震源の深さ0～90km)。

【概況】

24日から26日にかけて、想定震源域より西側の愛知県のプレート境界深部において「短期的ゆっくりすべり」が発生している。なお、平成25年はじめ頃から浜名湖付近のプレート境界で発生している「長期的ゆっくりすべり」は、平成27年半ば頃からは、やや緩やかになっている。

【東海地域】

〔地震活動〕

・特に目立った活動はなかった。

〔深部低周波地震(微動)活動〕

・24日から26日にかけて、愛知県西部から東部(領域a)を震央とする深部低周波地震(微動)を観測し、東海地方に設置されている複数のひずみ観測点で地殻変動を観測している。(別紙1、2参照)

【その他の地域】

・21日14時07分に鳥取県中部の深さ11kmでM6.6の地震が発生し、鳥取県で震度6弱、岡山県で震度5強、島根県で震度5弱を観測し、関東地方から九州地方にかけて震度4～1を観測した。

上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみ表示している。このため、震源決定精度が高くない深部低周波地震の震央は表示されない。

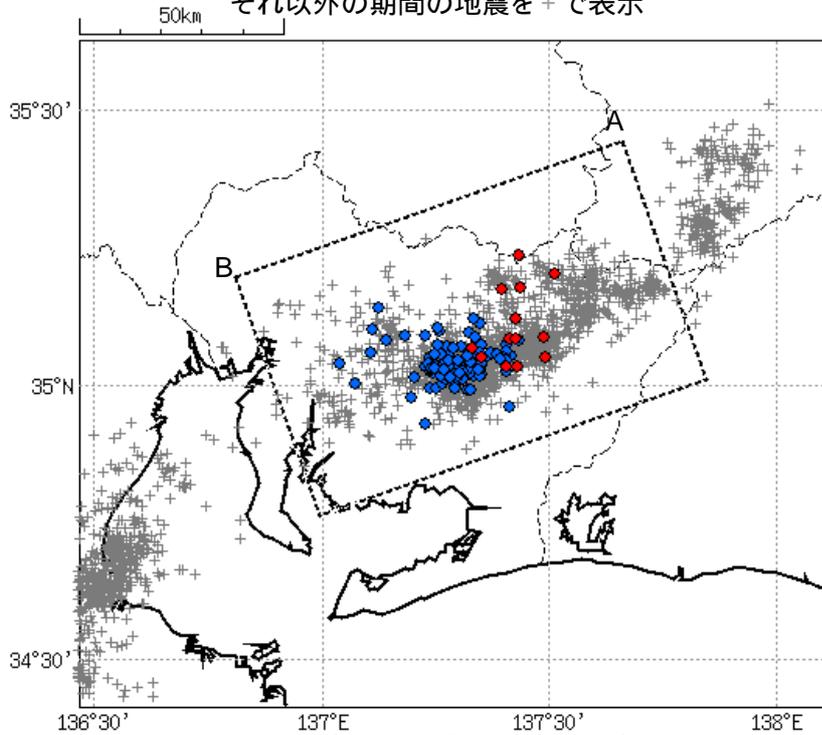
愛知県の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

10月24日から26日にかけて、愛知県西部から東部を震央とする深部低周波地震(微動)を観測している。また、これに同期して、東海地方に設置されている複数のひずみ観測点で地殻変動を観測している。これらの現象は、東海地震の想定震源域より西側の愛知県のプレート境界深部において発生した「短期的ゆっくりすべり」に起因すると考えられる。

今回の活動域では、2016年10月16日から20日にかけても、まとまった深部低周波地震(微動)活動が見られ、東海地方に設置されている複数のひずみ観測点で地殻変動を観測した。今回の活動域は、10月16日から20日の活動域よりやや北東側で発生している。ひずみ変化より推定した「短期的ゆっくりすべり」の断層モデル候補も10月16日から20日より北東側に求まっている。

深部低周波地震(微動)活動

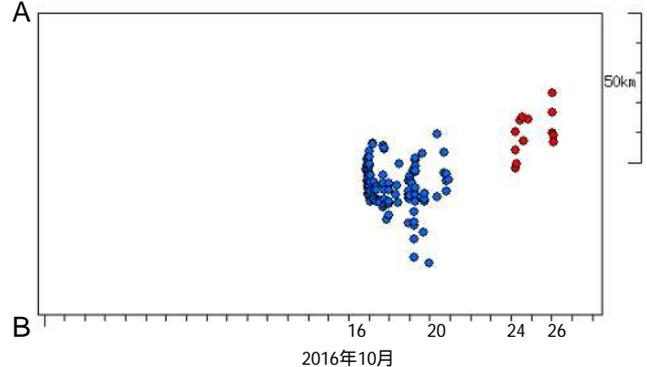
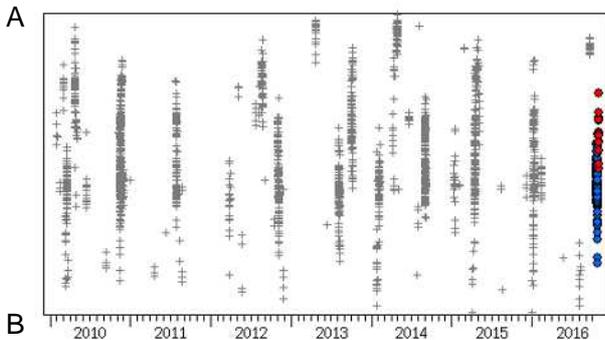
深部低周波地震(微動)の震央分布図(2010年1月1日～2016年10月27日)
 2016年10月16日～10月20日の地震を ● で表示 2016年10月21日以降の地震 ● で表示
 それ以外の期間の地震を + で表示



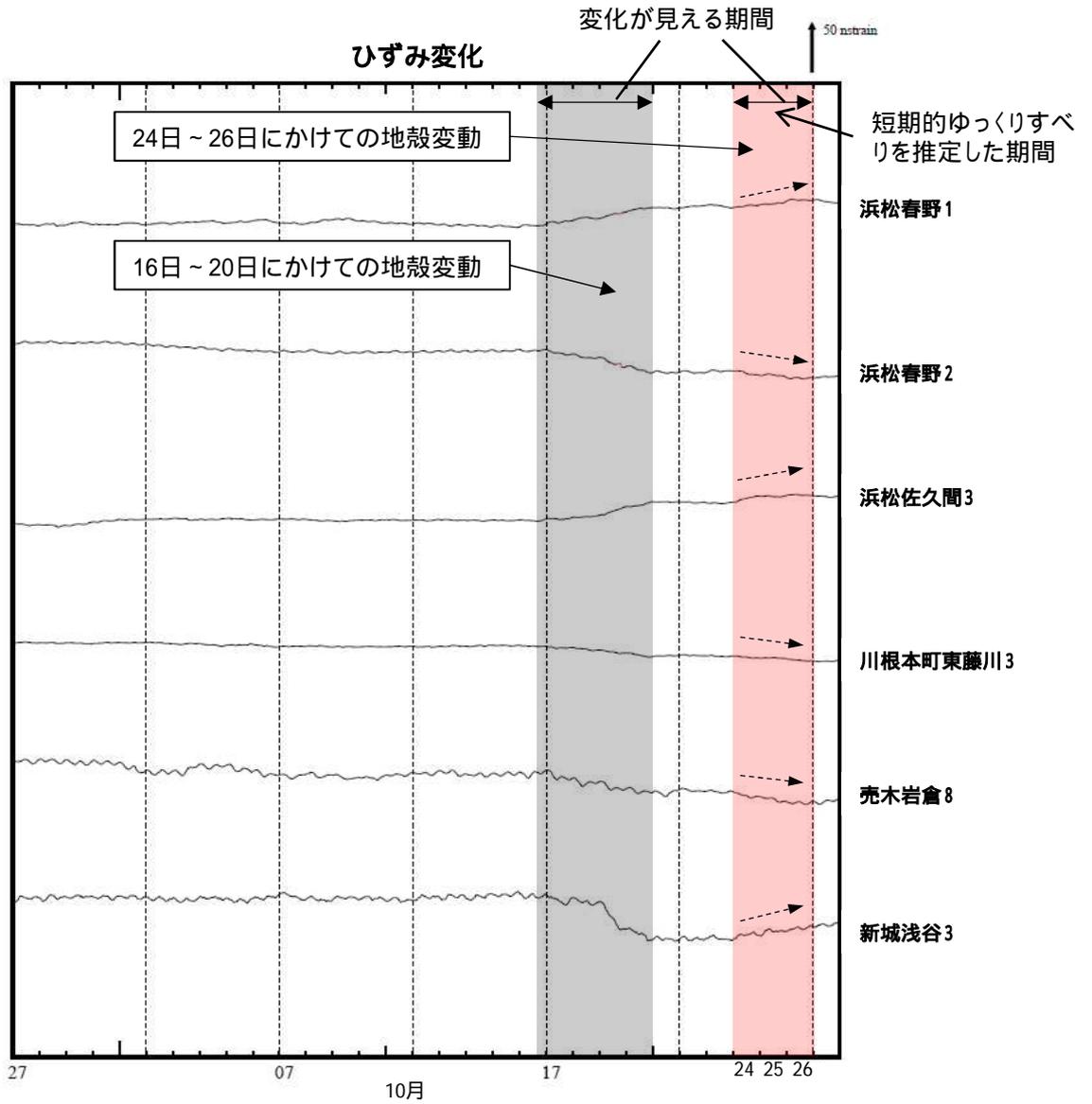
矩形領域内のAB方向の時間空間分布図

(2010年01月01日～2016年10月27日)

(2016年10月1日～10月27日)



ひずみ変化と短期的ゆっくりすべり



ひずみ変化を説明する断層モデル候補



断層モデル候補は、中村・竹中(2004)¹⁾によるグリッドサーチの手法により求めた。プレート境界と断層面の形状はHirose et al.(2008)²⁾による。

断層モデル候補の中心とその規模(Mw)を、すべりがプレート境界面上でプレートの沈み込み方向と反対に発生したと仮定し、考え得る全ての解を前提として得られる理論値と観測値を比較し、合致するものを抽出する手法

1) 中村浩二・竹中潤, 東海地方のプレート間すべり推定ツールの開発, 駿震時報, 68, 25-35, 2004

2) Hirose F., J. Nakajima, A. Hasegawa, Three-dimensional seismic velocity structure and configuration of the Philippine Sea slab in southwestern Japan estimated by double-difference tomography, J. Geophys. Res., 113, B09315, doi:10.1029/2007JB005274, 2008

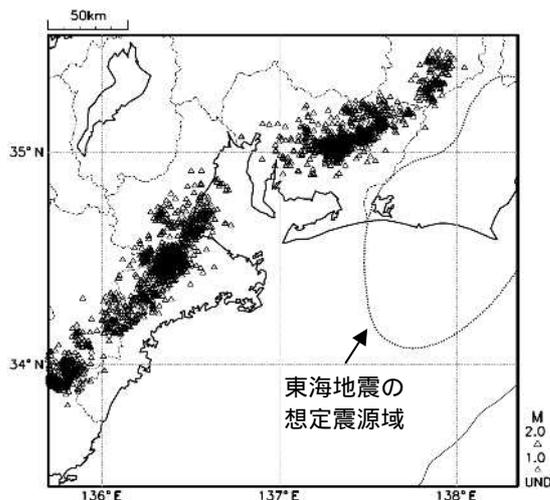
断層モデル推定に使用したひずみ観測点
断層モデル候補の中心(10月24日~26日)

浜松春野、川根本町東藤川は静岡県整備のひずみ計である。

解説 「短期的ゆっくりすべり」、「深部低周波地震（微動）」について

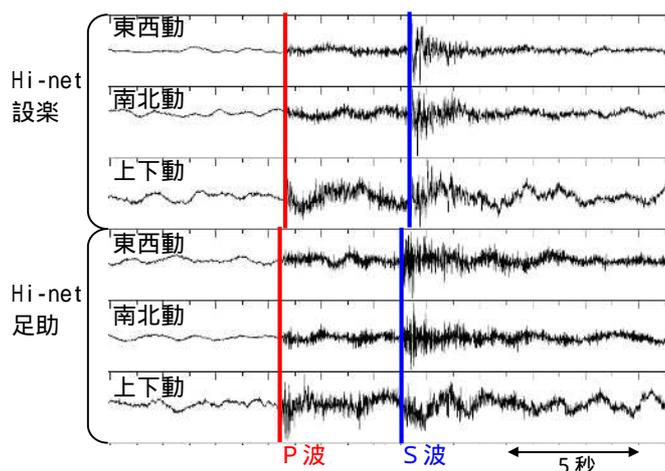
「短期的ゆっくりすべり」は、東海地震の想定震源域よりも内陸側の深さ約30~40 kmのプレート境界が、2~10日程度かけてゆっくりとすべる現象で、数カ月から1年程度の間隔で繰り返し発生している。これによって生じたとみなされる地殻変動が、東海地域に設置されたひずみ計等によって観測される。また、「短期的ゆっくりすべり」の発生とほぼ同じ時期に、そのすべり領域とほぼ同じ場所を震源とする「深部低周波地震（微動）」と呼ばれる、通常地震より卓越周波数の低い地震が観測され（P波やS波が明瞭でなく震動が継続するものは「微動」と呼ばれる）これは「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられている。なお、同じ「短期的ゆっくりすべり」に伴う現象でも、地殻変動と深部低周波地震（微動）では観測・解析の手法や検知能力が異なるため、観測される期間は完全には一致しない場合がある。

これらの現象は、これまでの経験から、いずれも東海地震に直ちに結びつく現象ではないと考えられている。しかし、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁では前兆すべりにつながる可能性についても考慮に入れ、関係機関の協力も得ながら注意深く監視している。

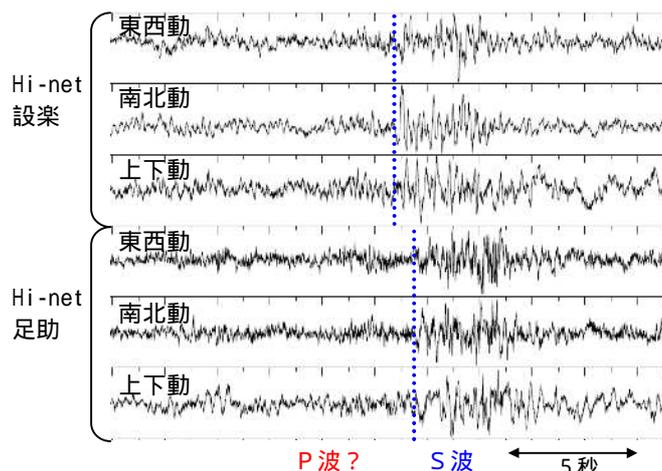


2010年1月1日から2013年7月31日までに観測された深部低周波地震の震央分布図

一般的な地震の波形（2009年1月26日04時03分頃）

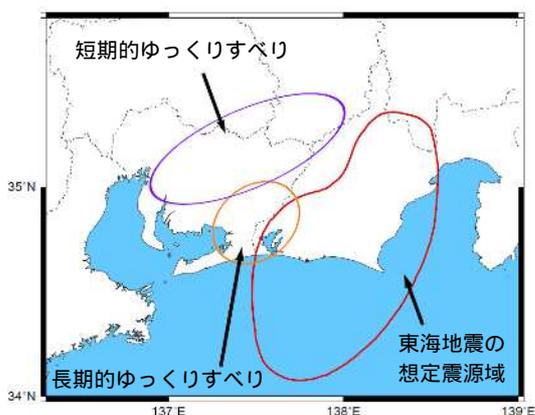


深部低周波地震（微動）の波形（2010年3月1日03時24分頃）



愛知県東部で発生した地震の波形

（左）一般的な地震。（右）深部低周波地震（微動）。いずれも震源の深さは36kmであり、規模も同等（M0.4）であるが、一般的な地震に比べて深部低周波地震では低周波の波が特徴的で、とくにP波の始まりが不明瞭である。（国立研究開発法人防災科学技術研究所の高感度地震計（Hi-net）の波形データから作成）



短期的ゆっくりすべりの発生領域

短期的ゆっくりすべりは、東海地震の想定震源域よりも内陸側の深さ約30~40 kmのプレート境界で発生すると考えられている。

また、短期的ゆっくりすべりの発生領域よりも海側の浅い場所では、数年程度かけてプレート境界がゆっくりとすべる「長期的ゆっくりすべり」が発生することがある。

